

外国人市民による

日本語スピーチコンテスト

今年度も、「外国人市民によるスピーチコンテスト」の出場者募集が始まっています。スピーチコンテストの出場者は例年、6割が市内の大学や日本語専門学校生、4割が市民館などでボランティア団体が運営する日本語教室の学習者です。

昨年度の第17回スピーチコンテストは、2011年2月19日に行われました。7カ国15名の出場者は、皆さん上手な日本語をあやつり、優れた表現力で会場を沸かせました。審査委員は「差がつかなくて困った」そうです。

受賞者6名と講評を振り返ってみると…



▲インドの結婚についてのスピーチ

賞	氏名(出身国)	スピーチタイトル	講評
最優秀賞	ひよん じよんひ 玄 定薫(韓国)	「人生のパートナーの見つけ方」	ユーモアたっぷり。きれいな発音、話し方に説得力があった。
川崎商工会議所 会頭賞	えい よう 衛 陽(中国)	「私の生きる道」	力強い話し方で、しっかりと自分の考えを主張した。
川崎市国際交流協会 優秀賞	きむ ひよな 金 賢娥(韓国)	「おばさんたちに愛の手を」	日本のおばさん達についての深い分析と、おじさん達への提言、文章の組立が優れていた。
川崎ライオンズクラブ 優秀賞	そら じゆん 成 智恩(韓国)	「楽しくあいづちを打ちましょう」	「あいづち」の素晴らしさについて、日本人が気づかない点をわかりやすく語った。
川崎市国際交流協会 特別賞	サミーラ ダルシャナ (スリランカ)	「他に何かありませんか」	内容にユーモアがあり、表現力が豊かだった。
川崎ライオンズクラブ 特別賞	まい かほう 蔡 佳芳(台湾)	「電車から見た東京」	日本人の行動様式やマナーについて、鋭い洞察力と好意的な視点を語った。

(文:編集ボランティア 小島俊彦)

～スピーチコンテスト舞台裏～

普段は、出場者にスポットライトが当たるこのイベントですが、今回は出場者をサポートしている、川崎市内の市民館や市民グループのボランティアの皆さんをご紹介します。

例年、当協会のスピーチコンテスト開催は2月ですが、出場募集は前年の11月から開始します。応募には、スピーチ原稿などを提出していただいています。しかし、日本在住期間が5年以下(出場資格)の出場希望者の皆さんにとって、初めから完璧な原稿を書いたり、必要書類を揃えることは簡単なことではありません。そこで、ボランティアの皆さんの出番です。原稿の推敲や読み方の指導、CD録音のお手伝いなど、丁寧な指導やサポートが大きな力となっています。

さらに、本番では、希望する出場者が振袖や袴を着ていますが、こちらでも毎年ボランティアで着付けをしてくださる着物教室の先生方にご尽力いただいています。

また、コンテストの後の交流会では、出場者、ボランティア、協賛団体や審査員の皆様が和やかに交歓し、スピーチコンテストも通じて交流の輪が広がっていることを実感するのが、担当者として楽しみとなっています。今年度もより多くの皆様に、その輪に加わっていただきたいと願っています。



▲最優秀賞受賞者(右中)、旦那様と応援団



▲交流会後に審査員や関係者と

INFORMATION

第18回

外国人市民による 日本語スピーチコンテスト

入場無料

2012年2月18日(土) 午後1時～3時30分

◎会場:川崎市国際交流センター・ホール
(東急東横線/目黒線)元住吉駅下車徒歩10分

ただ今出場者募集中! 〆切1月18日(水)

ご来場を
お待ちしております